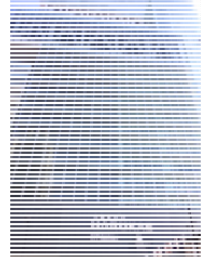


## 「アベノハルカス」で講演する

写真は「アベノハルカス」である。大阪阿倍野区に立地する高さ 300m、地上 60 階の日本一高い超高層ビル。2014 年にグランドオープンしたが、今回初めて訪れた。アベノハルカス 23 階「阪南大学キャンパス」で講演する機会に恵まれた。この日は梅雨の晴れ間で、23 階からでも遠くまで眺めることができた。早めに行き、まずは大阪の景色を堪能した。近くの天王寺公園が一望でき、梅田あたりの超高層ビル群や生駒山などもよく見えた。地上や地下街の雑踏に比べ、超高層ビルのキャンパスは静寂な感じだった。



講演するのは「カジノ万博で経済振興」というファンタジー ～ 05 愛知万博を検証するというシンポジウムである。前日 15 日



に「カジノ法案」が衆院内閣委員会で強行採決され、カジノ問題に関心が高まったこともあり、多くの参加者が詰めかけた。追加の椅子を運び入れたが、それでも「立ち見」の人も出るほどだった。なんだか「ハルカス」な気分となり、講演にのぞんだ。

シンポジウムでは開会挨拶のあと、私が「愛知万博から大阪『カジノ万博』誘致を考える」と題し基調講演をした。事前に送った 14 枚の資料をもとに、パワーを入れて作ったパワーポイントを使って講演した。写真はフェイスブック仲間が投稿した私の講演シーン。この貴重な写真をレポートに掲載することを快諾してもらった。キンチョー気味に、パワーポイントを操作しながら話している様子がわかる。



基調講演は次のような流れで話した。まずは「自己紹介にかえて」として、久しぶりの大阪暮らしの感想と愛知万博との関わりを語った。国家イベントとしての万博の歴史について、1970 年の大阪万博を例に振り返った。吉見俊哉『万博幻想—戦後政治の呪縛』冒頭で紹介されている、山田洋次監督の映画「家族」の一コマもとりあげた。そして、講演のメインテーマである愛知万博の検証と評価をじっくり語った。迷走する国家プロジェクトとしての愛知万博について、「海上の森」という里山破壊と会場変更、財政負担について問題を投げかけた。住民投票を求める運動なども紹介して、誘致決定から万博開催までの 17 年を検証した。この愛知万博と比較しながら、大阪万博の危うさ、とりわけカジノとセットで進められる万博構想を批判した。いま大阪にとって大切なのは、維新のように目先の銭金だけを考えるのではなく、20 年、30 年先を見据えた長期戦略だと指摘して、講演を締めくくった。

大阪経済についても準備していたが、時間の関係で十分に話せなかった。大阪経済人の貴重な報告などとともに、別に紹介していきたい。

(2018 年 6 月 18 日)